

津波を後世に伝える

地震の後には津波が来る、と考える行動してください。そのことを後世に伝えるために、四国各地に津波にまつわる石碑などが建立されています。今回は昭和南海地震後の津波に関する徳島県美波町の石柱と高知県須崎市の石碑をご紹介します。

■東由岐天神社下の南海地震津浪最高潮位石柱（徳島県美波町）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日午前 4 時 19 分、紀伊半島南方沖合を震源とする大地震が発生し、三岐田町（現美波町）には約 10 分後に津波が来襲しました。大勢の住民が津波を予知し、神社や寺の境内、裏山など高所に駆け上がって避難しました。東由岐、西の地、西由岐、木岐地区の海岸に近い住家はほとんど軒下まで浸水し、家具家財類が流失または損傷して大混乱となり、港の大小の漁船は堤防や道路の真ん中に押し上げられました。三岐田町分の被害は死者 8 人、重軽傷者 24 人、家屋の流失 48 戸、全壊 66 戸、半壊 220 戸、床上浸水 618 戸、床下浸水 70 戸、船舶の流出 39 隻などに及びました。この災害を後世に伝えるため、昭和 57 年に由岐町（現美波町）教育委員会が町内 4 箇所南海地震津浪最高潮位石柱を建設しました。その一つが東由岐天神社下に建っています。〈由岐町史編纂委員会編「由岐町史下巻」1994 年〉



東由岐天神社



南海地震津浪最高潮位石柱



(地理院地図に加筆)

■野見海岸の震災復旧記念碑（高知県須崎市）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日、南海大地震が起こり、須崎湾には地震後約 10 分で津波の第一波が襲来しました。津波はその後 2 時間半に 6、7 回来襲し、特に第三波が大きかったと言われています。野見では、津波の侵入は比較的緩慢でも引潮は速く、このため防波堤が 300m 余破られ、船舶・漁具・家財道具の流失破損は夥しい数に上りました。昭和 26 年に建立された野見海岸の震災復旧記念碑には、地震終息後に住民が貴重品を携えて裏山に避難したこと、浸水最高潮位は約 15 尺（4.5m）となったこと、野見では家屋の流失・全壊・半壊が相次ぎ 170 余戸のうち被害を受けなかった家は 20 数戸にすぎなかったこと、幸いに人畜の被害は皆無だったことなどが記されています。〈須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974 年、大家順助編「須崎消防の歩み第 2 巻」1985 年〉



野見海岸の震災復旧記念碑



震災復旧記念碑の案内



(地理院地図に加筆)